

豊作願い御田植祭



2022年度宮中行事「新嘗祭（にいなめさい）」に献上する献穀米の「御田植祭」が6月3日、那珂川市埋金の上野孝雄さんの献穀田で開かれました。

J A筑紫管内では20年ぶりの献上で、J Aなど関係機関で構成する那珂川良質米生産支援協議会が主催し、約36名が出席。

地域住民らが見守る中、上野さんや早乙女姿の地元の小学生らが、約10aの献穀田に「夢つくし」の苗を植えました。

献穀者の上野さんは「水稻苗は順調に生育し御田植祭を迎えることができました。今後、台風やウンカなどの病害虫の被害に遭わないように祈りながら、対策を徹底し無事に収穫を迎えたいです」と話しました。

とうもろこし収穫体験 初開催



J A筑紫は6月4日、太宰府市にある組合員の圃場で「ちゃぐりん とうもろこし収穫体験」を開催しました。

これは、J Aが取り組むふれあい活動の一環。新たなイベントとして昨年度も企画しましたが、コロナの影響で中止となり今年度が初めての開催となりました。応募の中から抽選で選ばれたJ A管内在住の親子30組が参加。2班に分けて、収穫の他、とうもろこしやSDGsについてのクイズ大会を行いました。

参加者は「初めてとうもろこしの収穫を体験できてとても楽しかったです。どんな風に育つのかや食育についても学ぶことができました」と笑顔で話していました。

宝満とまと出荷組合が定例会実施



筑紫野市の宝満とまと出荷組合は6月8日、筑紫野市本道寺で定例会を開きました。組合員や福岡普及指導センター、J A筑紫担当職員など6名が参加。生育状況や栽培技術などについて意見交換を行いました。

最盛期に向け適切な草勢を保つため水の管理を慎重に行い、防除や適期作業を精力的に行いました。組合では、定期的に定例会や圃場巡回、視察、勉強会などを行い、高品質なトマトの出荷に努めています。

手話で心をひとつに



JA筑紫女性部は6月10日、JA本店で手話ダンスの撮影を行いました。今回は、JA福岡女性協創立70周年の記念事業のひとつで、県内JAの女性部がリレー形式で動画を繋ぐ取り組み。撮影には、JA女性部の役員10名が参加しました。手話ダンスは、足でリズムを取りながら歌詞を手話と体全体で表現します。徹底した感染対策のもと、約1時間かけて撮影し、部員は息の合ったダンスを披露しました。

JA筑紫プロッコリー部会「2022年度作付け検討会」



JA筑紫プロッコリー部会は6月10日、筑紫野市のJA物流センターで「2022年度作付け検討会」を開きました。検討会には、部会員や普及指導センター、種苗会社、JA職員が参加。

部会員は、7月からの播種・定植時期の決定や意見交換で足並みを揃えました。

部会は21名で、作付総面積は約16ha。出荷先は、福岡大同青果市場や久留米青果市場を主とし、2022年度目標出荷量は約53t、販売額は約1360万円を計画しています。

栽培品種は、「ピクセル」や「おはよう」など16種類で、市場需要に対応するため、品種ごとの栽培管理を徹底し、出荷予定日の確認を行います。重点を置く苗づくりでは、8月に部会員が相互の圃場を巡回し、良品生産に向けて生育状況を確認します。

JA農業振興課担当職員は、「巡回を強化し、高品質出荷ができるように努めたいです」と話しました。

稲穂の無事祈る斎田御田植祭



太宰府市観世音寺の太宰府天満宮斎田で6月11日、「斎田御田植祭」が斎行されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から出席者を制限し、神職や氏子、地元の農業関係者の代表者が参加。

恒例の神事で、秋の豊作を祈った後、色鮮やかな装束を身にまとった天満宮の巫女（みこ）が「早乙女の舞」を奉納しました。

その後、宮司による初植えに続いて、菅笠にもんぺ姿の巫女や氏子らが斎田に入り、丁寧に手植え。これは、5月の「斎田播種祭」で種もみをまいて育てた苗です。

10月中旬には、稲穂を収穫する「斎田抜穂祭」があり、収穫した米は、11月の「新嘗祭」で最初にお供えし、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての神事などで使う予定です。

青壮年部が田植え授業をサポート



JA筑紫青壮年部は6月15日、那珂川市立南畑小学校5、6年生の児童と共に田植えを行いました。この取り組みは、児童の食育活動をサポートする目的で毎年行っています。

児童は部員と共に田んぼに入り、縄に付けられた印に沿ってもち米の苗を丁寧に手植え。初めて田植えをした児童は「一つひとつ植えていくのは大変だったけど、とても楽しかったです」と話しました。

植えた苗は、10月頃に刈り取り、もちつきをして味わう予定です。那珂川支部長の内野孝博さんは「この経験を通して、農業の楽しさや大切さを学んでくれると嬉しいです」と話しました。

夏芽アスパラガス 出荷規格を確認



JA筑紫アスパラガス部会は6月20日、筑紫野市の集荷場で部会定例会を開きました。当日は、福岡普及指導センターや部会員、JA農業振興課職員など10名が参加。目合わせを行い、出荷規格や基準などについて部会員で話し合いました。

高石光幸部会長は「今回の目合わせで規格などの基準をしっかりとそろえ、品質の良いアスパラガスを出荷しましょう」と呼びかけました。

夏芽アスパラガスの生育はおおむね順調。今後も病害虫防除を徹底し、高品質なアスパラガスの出荷に取り組みます。

組合長が児童に田植えの授業



JA筑紫の白水組合長とJA青壮年部は6月23日、春日市立大谷小学校5年生に田植え授業を行いました。

この取り組みは、小学校の総合学習の一環。児童の食育活動をサポートする目的で20年以上続いています。

白水組合長は苗の持ち方や植え方を説明。児童は田んぼに入り、縄につけられた印に沿って苗を丁寧に植えました。初めて田植えをした児童は「土が柔らかくて足が沈む感覚が面白かったです」「大変な作業だったけど収穫が楽しみです」と笑顔で話しました。

学校は、学習の成果を高めるために振り返りの作文作成や成長過程を写真に収めながら観察するように児童へ促しています。

植えた苗は、10月上旬に刈り取り、給食の時間に味わう予定です。

白水組合長は「お米がどのように育っていくか学びながら、食べ物への感謝の心を忘れないでほしいです」と話しました。